テーマ：

「凛々子」と仲よし！
心も体も豊かに成長しよう！

新潟県
社会福祉法人　浄英会
恵和保育園分園
恵和めぐみキッズランド
田村先生　大島先生　小野塚先生
給食部　高野さん　吉田さん

この活動の特徴

「凛々子」活用のポイント①

堆肥づくりから取り組み、
自然のサイクルを体感した

「凛々子」活用のポイント②

畑と鉢植えの両方で「凛々子」を栽培し、
園児たちの反応などを比べた

活 動 の ね ら い

- 一人１本の苗を育てることで、「凛々子」を大切に育てる心と思いやりや感謝の心を育む
- 調理する楽しさやおいしさを実感する

活 動 の 概 要 と 流 れ

対　象　学　年　：　以上児３・４・５歳児　（９５名）
実　践　期　間　：　４～９月

時期	学習活動
４月	畑の土づくりをスタート。昨年育て終わった葉や茎、落ち葉などでつくった
	堆肥を畑に入れる
	定植、観察開始
５月	芽かきをし、わき芽を育てる
６月	「凛々子」が赤く色づきはじめる。初収穫
	収穫した「凛々子」を園庭に並べ、皆で収穫数を数える
７月	園で育てている他の野菜と「凛々子」の花と実を比べる
８月	「『凛々子』のトマトソースがけコロッケ」をみんなでつくる
９月	青い「凛々子」でジャムをつくる
１０月	畑の片付けをする。抜き取った「凛々子」を
	堆肥場に入れて土にかえす

ここがポイント！取組の工夫と実践の成果

一人 1 本の「凛々子」の苗を育てた

園の畑を「農園めぐみファーム」と名付け、「凛々子」以外にもナスやピーマン、キュウリなどさまざまな野菜を育てた。今年は 96 本とたくさんの「凛々子」の苗が届いたので、「農園めぐみファーム」で育てるのはもちろん、鉢植えで一人 1 本の苗を育てることにした。3、4、5 歳児の計 36 名で鉢植えでの「凛々子」栽培にチャレンジ。自分の名前が書いてあるプレートを支柱につけ、栽培活動がスタートした。

一人 1 本の苗を育てることにより、自分の「凛々子」という責任感が生まれ、毎日水やりなどの世話をかかさずに行っていた。「凛々子」の世話をすることが楽しみに登園してくる子どももいた。また昨年も栽培活動をしている子どもたちが、「お尻が病気にならないように気をつけないと!」と、昨年の栽培活動から学んだことを 3 歳児に教えてあげる場面もあった。

実がつきはじめると、友だちと数を比べたり、「大きくなあれ!」「赤くなあれ!」と毎日声をかけたりと大盛り上がりだった。

「心も体も豊かに成長しよう!」という活動テーマのように、「凛々子」の生長とともに子どもたちの成長も感じることができた。

「凛々子」やその他の野菜の給食の残食が減った

トマトは酸味や香り、また種のゼリー状の食感などが理由で、子どもが苦手とする野菜の一つだ。けれど「自分たちが育てた野菜だから食べてくれるだろう」と考えていたが、食べられずに残す子どもが多く、どうしたら良いのだろうと考えていた。

しかし、繰り返し「凛々子」を使用した料理メニューを出したり、みんなで「凛々子」を調理したりしているうちに残食がゼロになり、「農園めぐみファーム」で育てている他の野菜の残食もなくなった。

また畑の片づけをした時、青い「凛々子」の実を収穫し、最後の 1 つまで大事に食べたいという子どもたちの想いから、青い実を給食室へ持って行った。その青い実でジャムを作ってもらい、カナッペにしてみんなで食べた。

子どもたちは「凛々子」の栽培活動を通して、自分たちが手間をかけ、苦労して育てたということから「食べ物への愛情」が生まれ、「食べ物へ感謝する」ということを学んでくれたようだ。

先生から一言！実践を通して

昨年に引き続き、2 回目の「凛々子」の栽培活動。昨年よりもよりよい活動になればと、一人 1 本の苗を植えました。自分の「凛々子」という責任感が生まれ、子どもたちはより一層愛情を持って栽培活動に取り組んでくれました。

また、近隣の方が畑について教えにきてくれ、地域との交流も生まれました。

堆肥場を作ったことで、収穫が終わった「凛々子」の苗はまた来年「凛々子」を育てるための土にかえるという、「命のサイクル」を教えることができました。堆肥場に入れた「凛々子」が、また来年おいしい「凛々子」の実をつけてくれることを子どもたちも楽しみにしています。

受賞理由

「凛々子」のための土づくりから畑の片づけまでの「命のサイクル」や、一人 1 本の苗の栽培を通し、食べ物への感謝が培われた事例です。栽培の課程で丁寧に観察し、子どもたちの学びにしていただきました。園で育てている他の野菜との比較や、「凛々子」での離乳食作りなど幅広い取り組みでした。